

Coffee Break

Sept 2010

Vol. 68



特集 マドリードの カフェ文化

Free Talk

朝活
コーヒーと料理の関係

Coffee Culture

インタビュー
古厩智之 (映画監督)
エッセイ
映画『純喫茶磯辺』

コーヒーと健康
コーヒーがもたらす肥満予防効果

ワールドレポート
変わりゆく世界最大の生産国「ブラジル」



Coffee Break は、1981 年（昭和 56 年）の創刊以来、コーヒーの生産・消費・市場・歴史・文化・科学情報など、様々な視点からコーヒー業界内の大きなトピックスを記録し続けてきました。

日本人の生活の中でコーヒーが親しまれるようになって以来数十年、今やコーヒーは単なる嗜好飲料の枠を越えて、ライフスタイル、ファッション、カルチャーの形成の一部としての役割を果たしつつあります。また、「コーヒーと健康」といった飲用面からの科学的分析も近年活発に行われるようになりました。

現在、Coffee Break は（社）全日本コーヒー協会発行の機関誌として、コーヒーについて「何が考えられ、何が行われているか」を、読者の皆様に御紹介しております。

Contents

- 01 特集
マドリードのカフェ文化
- 10 Coffee Culture 【映画】
インタビュー 古厩智之（映画監督）
エッセイ 映画『純喫茶磯辺』
- 14 Free Talk
朝活
- 18 コーヒーと健康
コーヒーがもたらす肥満予防効果
- 22 Free Talk
コーヒーと料理の関係
- 25 CB Gallery
『Legend of coffee discovery』
- 26 ワールドレポート
変わりゆく世界最大の生産国「ブラジル」
- 28 Coffee Labo
コーヒーにおける CO₂ 削減活動
- 30 コーヒーも〜ど
第1回 「ドーナツ」
- 31 Information
32 全日本コーヒー協会
2010年1〜7月 活動報告

表紙／撮影：藤牧徹也

特集

マドリードの カフェ文化

文・写真 河合妙子
(取材協力：José Carlos Segundo Bravo)

スペイン新時代のカフェとして 1980 年に創業した「エル・エチョ」



1. 討論カフェの伝統を継ぐ「カフェ・ヒホン」。
2. 美しい並木とその樹影が心地よい、カフェ・ヒホンのテラス席。



スペイン
 ■面積 50.6万km²(日本の約1.3倍)
 ■人口 約4,666万人(2009年1月)
 ■首都 マドリード
 ■マドリード市の人口 約326万人(2009年1月)

今年の夏、サッカーのワールドカップを制したスペイン。

優勝パレードの陽気な様子からは想像しにくい、この国には暗黒の時代もあった。

長く辛い年月を乗り越えてきたマドリードの2軒のカフェ。

その歴史は、すなわちマドリードの闇と光を表している。

レコレトス通り21番地。マドリレーニヨ(マドリードっ子、マドリード人は、スペイン「El Café Gijón」(カフェ・ヒホン)があることを知っている。

マドリードで最も美しい並木道に生い茂る緑が作る涼しげな影の下には、白いクロスが掛けられたテーブルが延々と並ぶ。

サッカーの名門クラブ、レアル・マドリードの優勝パレードで有名なシベレス広場はすぐそばにあり、南側には深い森に覆われたレティエロ公園、プラド美術館、ティッセン・ボルネミッサ美術館、そしてピカソ

の『ゲルニカ』を所蔵しているソフィア王妃芸術センターがある。

芸術家のたまり場だった、マドリードの「討論カフェ」。

マドリードには、カフェ・デ・テルトゥリア(討論カフェ)の伝統がある。

コーヒーカップやアルコールのグラスが雑然と並ぶテーブルを囲んで、作家や画家、詩人、映画人、演劇人、ボヘミアンたちが、時の過ぎるのも忘れて芸術や哲学の討論にのめり込

んだ。

また、脚本家たちは、新作を披露するために、監督やプロデューサーに会いにきた。無名な俳優たちも、自分を売り込もうと店に立ち寄った。仮縫いの衣装を手にとって、俳優を追いかける衣裳係もいた。

話好きなスペイン人のこと、ひとたびテーブルに座りこむと話題が広がり、人の波が途切れることはなかったという。

カフェ・ヒホンは、討論カフェの伝統を今に伝える、最古の店である。初代オーナー、グメルシンド・ゴ

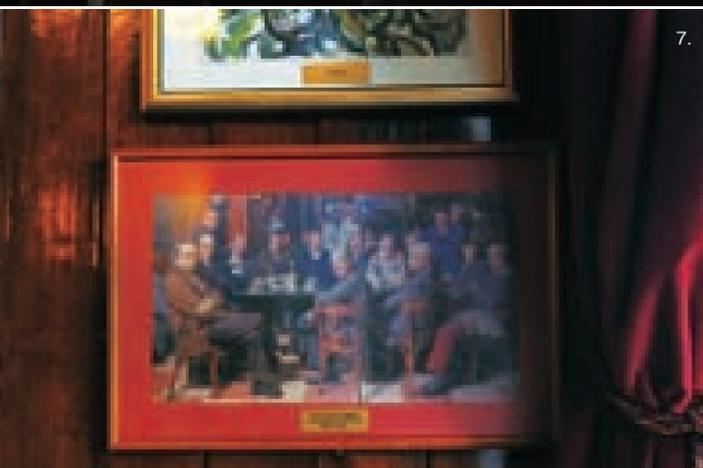




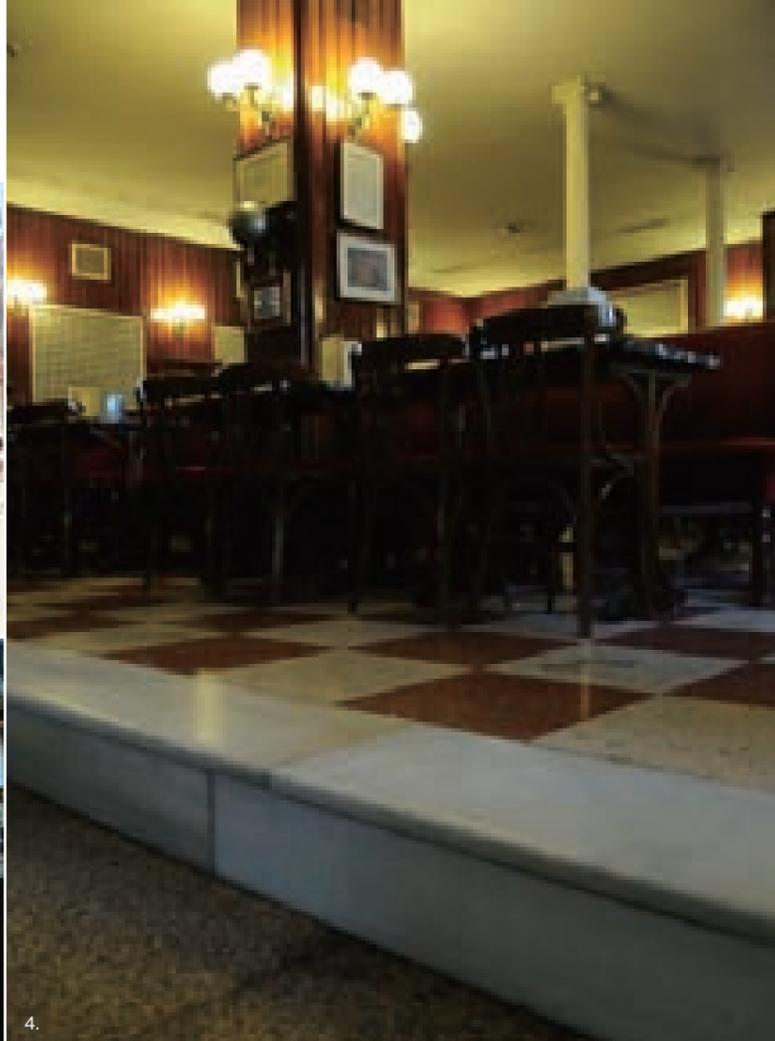
5.



6.



7.



4.

- 3. カフェ・ヒホンの地下レストラン。天井の曲線が美しい。
- 4. 19世紀、馬車で乗りつけた客たちは、一段高いホールで話し込んだという。
- 5. 歴史を感じさせる、カフェ・ヒホンの外観。
- 6. おしゃべり好きなスペイン人。カウンターでの会話も弾む。
- 7. 店内には討論カフェの全盛期を今に伝える写真が。



3.

メスさんは、スペイン最北端の小さな村、ヒホン出身。キューバとベネズエラへ渡り、財産を築いた後にマドリッドへ凱旋帰国する。そして1888年5月15日、レコレトス通りに故郷の名を冠したカフェを開いたのだった。

一帯は屋敷街。討論カフェは当時の流行文化で、この界隈にも何軒もあった。髯を生やした山高帽の紳士たちは、店内に馬車を繋いでから、ホールの仲間たちの輪に加わった。

カフェ・ヒホンでは、現在カウンターがあるところに馬車が繋がれていたが、当時の名残がホールの床にある。カウンターの床よりも一段高くなっているのだ。

カフェで人々が芸術討論に没頭する姿は、パリのサンジェルマン・デブレにあるカフェ・ドゥ・マゴを彷彿とさせる。しかし、その背景は違う。スペインでは1936年に内戦が勃発。3年後に勝者となった国民戦線軍のフランコ総帥による独裁体制が敷かれ、それは1975年まで続いていた。

その間、表現の自由は奪われ、社会主義は徹底的に弾圧され、スペイン文化は危機的状況に陥った。



10.



9.



8.

8. カフェ・ヒホンに36年間勤務する、マネージャーのホセさん。
9. 討論カフェの伝統を今に伝えるカフェ・ヒホン。
10. エル・エチヨの店内。右端の女性がオーナーのロラさん。

暗黒時代を乗り越え、
受け継がれた伝統。

カフェ・ヒホンの常連の一人、詩人ガルシア・ロルカは、1936年に暗殺された。映画監督ルイス・ブニユエルは、1928年に画家のサルバドル・ダリたちと映画『アンダルシアの犬』を撮ったが、後に海を渡ってしまった。
息苦しい状況下だったが、ブニユエルのように誰もが逃げ出せたわけではない。カフェでの討論は、命を賭けて芸術を守ろうとする人たちにとって、ひと筋の「救いの光」だったのかもしれない。

戦争や言論弾圧により芸術家たちが極貧となったため、この界限のカフェは客足が途絶え、次々と閉鎖を余儀なくされた。行き場を失くした常連たちは、何とか持ちこたえていたカフェ・ヒホンへ集まった。お金を借りに来たり、餓えを凌ぐために水や重曹を求めにやって来る者たちには、比較的裕福な仲間が援助することもあったという。

この店に出入りしたのは、スペインの文化人だけではない。常連のスペイン人に連れられて、アメリカの若者による社会革命「ラ・モビダ・マドリレーニャ」が起こり、マドリッドを中心にロックやパンクが流行。記念の年「80（オチエインタ）」は、解放の合言葉になった。当時、運動の先陣を切っていた若者の一人に、後に『アタメ』（89年）や『キカ』（93年）で世界的に注目され、『オール・アバウト・マイ・マザー』（99年）でアカデミー外国語映画賞を獲った映画監督ペドロ・アルモドバルがいる。彼が好んで描く頭の壊れた女たちや不器用でちよつと哀れな男たちは、この潮流における表現の自由解放と深い関係がある。

民主主義の到来とともに、
新時代のカフェが誕生！

まさに改革解放の真っただ中の「80」年、まだカフェらしき店が2、3軒しかなかったウエルタ通り56番地に、新時代のカフェがオープンし

作家トルーマン・カポーティや、映画監督オーソン・ウェルズ、女優エヴァ・ガードナー、イタリアの俳優マルチェロ・マストロヤンニら、世界の名だたる文化人たちも、たびたびこの店を訪れている。

スパングリッシュ（スペイン風の英語）の嵐を浴びせる人々の陽気な歓声や、客人らの笑顔……。暗黒時代のスペインにあつて、この店は芸術家たちのオアシス的な存在だったのだらう。

ベテランのカマレロ（ギャルソンのホセさんが、楽しい逸話を聞かせてくれた。ある日、全盲の人々に対して点字協会のパーティが催され、主催者はアトラクションとして、ストリップを呼んだ。

しかし、このパーティを担当したホセさんは心配した。「さて困ったぞ。彼らは女性の裸が見えないではないか」と。しかし、そんな心配をよそにパーティは盛り上がった。そしてテーブルが隅に寄せられ、来場者はストリップの身体を手で触れて確かめ始めたのだ。

「あれは、まるで映画そのものだったねえ」と、ホセさんは懐かしそうに語った。

マドリッドで初めて、ラムをレモンで割りミントを浮かべたキューバの飲み物「モヒート」を売り出した「EL ECHIO」（エル・エチヨ）「事実」の意だ。

モヒートが評判になり、「エル・エチヨ」を真似る店が跡を絶たなかった。この店は、マドリッドに溢れているおしゃれなカフェの原型ともいわれている、伝説的な存在である。ウエルタ通りのあるサンタナ地区は、今やカフェやバル、ライブハウスの密集地域となった。

看板や内装の壁をおおうグリーンやオレンジの原色は、モヒートに浮かべるミントと相まって、どこかカリブの木陰や夕焼けの海辺を連想させる。それでいて店内の片隅には、スペインらしい骨董タイルで囲まれた、古い無骨なオープンがあった。

「ここは昔、お肉屋さんだったの。お惣菜用のお肉を焼いていたのよ、このオープンで。建物は築100年ぐらしかしら。ほら、この大理石の天板は、いにしえのまな板なの。ここ、触ってみて」とエル・エチヨのオーナー、ロラさんに言われて、光る純白のカウンターを手で触ると、細長くくぼんでいた。



14.



13.



11.



12.



17.



15.



18.



16.

- 11. 昼下りのエル・エチヨ。店内の濃いオレンジと緑の配色がカリブの海辺を思わせる。
- 12. 夜から集まる客のために準備される、エル・エチヨの名物メニュー「モヒート」。
- 13. 午前3時のエル・エチヨ。モヒートやダイキリなどを飲む若者たちに混じってコーヒーを楽しむ人も。
- 14. マドリード中心部に位置するマヨール広場。
- 15. エル・エチヨは閉店（午前4時）間際でも客は絶えない。
- 16. 週末のマドリード。夜更けになっても多くの人が出歩いている。
- 17. サッカーのスペイン代表やレアル・マドリードのパレードが行われるシベレス広場。
- 18. エル・エチヨ付近の下町ラビエス。おしゃれなバリとは異なり、ほこりっぽくてどこか人間くさい。

「30年間、モヒートを作り続けていたから、レモンの酸ですり減っちゃったのよ」
ランチや遅い朝食をとる常連のために昼過ぎには開店するが、人がやってくるのは夜だ。ドミニカ共和国など中南米出身のアルバイトの若者た

ちがカウンターに入ると、店はカリブと化す。通りを挟んだ隣の地区は、若者やアジア・アフリカの移民たちが愛する下町ラビエス。週末もなれば朝の4、5時ですら、若者も物売りたちも帰る気配がない。
「ラ・モビダ・マドリレーニャ」の波をたつぷり浴びたロラさん。カフェを開店した動機にも、さぞユニークな経緯があったのではなからうか。
「いいえ、全然。もともとの近くでレストランをやっていて、じゃあ、もう一軒出そうかという話になったの。それだけのことよ。で、開店前にキューバに旅行に行ったら、モヒートにハマっちゃったというわけ」と、開けっぴるげで屈託がない。
激動の20世紀をかくくぐってきたマドリードの老舗カフェ2軒で聞いたエピソードに、大らかで飾りつけないマドリレーニョの粋な魂に触れた気がした。

河合妙子
(かわい・たえこ)

1964年生まれ。記者、フォトグラファー。スペイン在住。現在、ユネスコ世界遺産トレドから、日本の女性誌、新聞、ムックなどにヨーロッパ情報を発信中。

(社)全日本コーヒー協会 2010年1～7月活動報告

1月

5日(火) 賀詞交歓会(東京会場:帝国ホテル「孔雀東の間」)17:00～19:00
7日(木) 賀詞交歓会(大阪会場:ヒルトン大阪「桜の間」)11:30～
14日(木) コーヒー親善大使のメディアキャラバン10:00～
21日(木) (社)日本フードサービス協会賀詞交歓会(ホテルニューオータニ)18:00～
25日(月) 商標登録問題(知的財産高等裁判所第2部書記官室17F)11:30～
26日(火) 全日本コーヒー商工組合連合会新年懇親会(松本楼)17:00～
27日(水) 広報・消費振興委員会(全協)13:30～

2月

3日(水) 安全・安心委員会(全協)13:30～
8日(月) 科学情報委員会(全協)13:30～
10日(水) 食品関連団体等連絡協議会(三会堂ビル)14:00～
全日本コーヒー厚生年金基金代議員会(貿易センタービル39F)15:15～
16日(火) 環境委員会(全協)13:30～
24日(水) 知的財産高等裁判所口頭弁論
25日(木) 財団法人食の安全・安心財団 評議員会(JF会議室)15:00～16:00
26日(金) ～28日(日) 世界コーヒー会議(グアテマラ国)

3月

1日(月) ICO会議(PSCB)(グアテマラ国)
2日(火) 薬事・食品衛生審議会食品衛生分科会(航空会館703号室)14:00～
3日(水) 広報・消費振興委員会(全協)13:30～
4日(木) 武田 佳次氏叙位伝達式(農林水産省)14:00～
11日(木) 理事会(全協)13:30～
12日(金) 武田 佳次 日本珈琲貿易株式会社取締役相談役(元全協副会長)社葬
(公益社千里会館:吹田市桃山台五丁目3番10号)13:00～14:30
15日(月) エチオピア国商標登録裁判反駁書提出締切日
17日(水) コーヒー専門紙へのグアテマラ出張報告(全協)16:30～
18日(木) 高砂香料工業(株)前社長 武 弘樹様を偲ぶ会(帝国ホテル)18:00～
19日(金) 平成21年度研究助成審査会(全協)16:00～
24日(水) 全日本コーヒー公正取引協議会(如水会館)13:00～15:00
26日(金) コーヒー生豆残留農薬問題対応検討会(全協)13:30～
29日(月) エチオピア国商標登録裁判判決(知的財産高等裁判所)15:00～

4月

8日(木) グアテマラ出張報告会
12日(月) 太田会長 消費者庁次長表敬(消費者庁次長室)11:00～
13日(火) 広報消費振興委員会(全協)13:30～
14日(水) 食品関連団体等連絡協議会(三会堂ビル)14:00～
15日(木) 上島達司 副会長 春の園遊会招待(赤坂御苑)
国際委員会(全協)13:30～
28日(水) 長谷川全協元会長インタビュー(全協)14:00～
渡辺喜美先生成長戦略セミナー(ホテルニューオータニ)18:00～

5月

6日(木) 商標登録上告理由書読み合わせ(全協)10:00～
7日(金) 食香粧研究会設立記念発表会(外国人記者クラブ)16:00～
11日(火) 石光全協元会長インタビュー(全協)13:00～
13日(木) 公取協常任理事会(馬事畜産会館)13:30～
14日(金) 柴田全協元会長インタビュー(キーコーヒー)14:00～
日本フードサービス協会通常総会懇親パーティ(ホテルオークラ)18:00～
17日(月) 上島全協元会長インタビュー(UCC)13:00～
18日(火) 東日本コーヒー商工組合通常総会(東海大学校友会館)14:00～
20日(木) 畔柳氏インタビュー(全協)14:00～
25日(火) 全日本コーヒー商工組合連合会総会(京都プライトンホテル)14:00～

6月

1日(火) 広報・消費振興委員会(全協)15:00～
3日(木) 東日本コーヒー商工組合地区懇談会(仙台)
4日(金) 東日本コーヒー商工組合地区懇談会(札幌)
7日(月) 安全安心委員会(全協)13:30～
10日(木) 理事会(全協)13:30～
11日(金) 「ストレスと疾病」一嗜好品の役割を考える(都市センターホテル)13:00～
14日(月) 環境委員会(全協)13:30～
15日(火) 全日本コーヒー公正取引協議会理事会・総会(東商スカイルーム)15:00～
16日(水) 食品関連団体等連絡協議会(三会堂ビル)14:00～
17日(木) 駐日エチオピア国大使と残留農薬問題に関する意見交換(全協)14:00～
18日(金) 研究助成発表会(アルカディア市ヶ谷)14:00～
29日(火) 国際委員会(全協)13:30～

7月

1日(木) 広報・消費振興委員会(全協)13:30～
7日(水) IC料理コンテスト審査会(スタジオ・メイユール)12:30～14:30
8日(木) 全協正副会長会議(全協)11:30～
全協理事会(全協)13:30～
12日(月) 2010 コーヒー需要動向調査WG(全協)14:00～
14日(水) 安全安心委員会(全協)10:00～
太田会長インタビュー(キーコーヒー)13:30～
21日(水) 食品関連団体等連絡協議会(三会堂ビル)14:00～
30日(金) 容器包装リサイクルセミナー(大日本水産会大会議室)15:00～17:00

CB

Coffee Break Vol. 68

発行日:平成22年9月30日

発行・発売:社団法人 全日本コーヒー協会(監修責任:広報・消費振興委員会)
〒103-0015 東京都中央区日本橋箱崎町6-2
TEL (03)5649-8377 FAX (03)5649-8388
<http://coffee.ajca.or.jp/>

発行人:西野豊秀(社団法人 全日本コーヒー協会)
編集長:伊藤雄道(株式会社 阪急コミュニケーションズ)
編集:株式会社 阪急コミュニケーションズ、株式会社 青丹社
デザイン:木ノ下 努(アロハデザイン)
印刷・製本:共同印刷株式会社

ご購入、バックナンバーご希望の方には、1部 600円(送料・税込)で販売中です。「お名前(宛先)」「(送付先)ご住所」「お電話番号」「ご希望部数」をご記入の上、当協会宛にFAXまたはハガキでお申し込み下さい。在庫がなくなり次第、販売終了となります。本誌送付の際に、振込用紙を同封させて頂きますので、お手元に届き次第、お振込み下さい。バックナンバー・新刊・ご購入情報は、当協会ホームページ(<http://coffee.ajca.or.jp/>)でも、ご案内させて頂いております。